



図1: タイワンヒラアシキバチ♀ (背面).

奄美大島での記録も含め、本種はもともと国内には分布せず、すべて国外からの移入に由来するものであり、本州のいくつかの地点では定着するに至ったと考えられるようになった (Shinohara, 2022). なお同属の別種 *Eriotremex quadricinctus* も兵庫県で採集されているが (Paratype), 他の既知の分布地 (台湾, 与那国島, 石垣島) からは隔離されているため、兵庫の記録は偶産であった可能性が指摘されている (Shinohara, 2022).

1988年倉敷市の標本は *Eriotremex yamasakii* Togashi, 1990 (ニセタイワンヒラアシキバチ) の名で記載されたが、これは後に Shinohara (2022) により本種のシノニムとされ、吉田 (2014) が三田市からニセタイワンヒラアシキバチとして報告した標本も Shinohara (2022) により検討され、本種であることが確認されている。上郡町は *yamasakii* の名で報告された2標本の産地、倉敷市と三田市のほぼ中間に位置するが、今回上郡町で得られた標本には *yamasakii* 的な特徴 (類に紋をもち、腹部第6節に黄帯をもち、等) は認められなかった。

謝辞

日頃からハバチ・キバチ類に関する御指導をいただき、今回も文献を御提供いただいた国立科学博物館の篠原明彦博士に感謝いたします。

○引用文献

- 内藤親彦・篠原明彦・原秀穂, 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑. 北海道大学出版会, 札幌. 530pp.
- 瀬戸良三・右田清治・真殿克磨・熊野茂, 1993. 兵庫県安室川産の淡水産紅藻チスジノリとチスジノリ属2種の日本における分布. 藻類 41(4): 355-357.
- Shinohara, A., 2022. The woodwasp genus *Eriotremex* (Hymenoptera: Siricidae) of Japan. Japanese journal of Systematic Entomology, 28(2): 169-

180.

- 高島昭, 1997. 上郡町で採集した蛾 (1) (兵庫県産蛾類分布資料 6). きべりはむし, 25(1): 31-39.
- 辻光浩・水野雅光・齊藤重人・池田正・眞間修一, 2004. チスジノリがよみがえる川づくり (兵庫県安室川). リバーフロント研究所報告 (15): 17-23.
- 吉田浩史, 2014. 兵庫県産ハバチ・キバチ類の追加記録. きべりはむし, 36(2): 15-25.

(Hideo OGAI 兵庫県上郡町)

洲本市でハネビロトンボを採集

島岡 優

兵庫県洲本市でハネビロトンボを採集したので報告する。

1ex., 兵庫県洲本市三熊山ドライブウェイ, 17. VIII. 2024, 筆者採集・保管 (図)

正午ごろ三熊山ドライブウェイの歩道を歩いていたら、ウスバキトンボの群れの中にまぎれてハネビロトンボがいた。採集した個体は、翅がまだ柔らかかったことから未成熟と考えられる。

最後に、発表を勧めていただいた八木剛氏 (兵庫県立人と自然の博物館) にお礼申し上げます。

(Yu SHIMAOKA NPO 法人こどもとむしの会)



図. 洲本市で採集したハネビロトンボ.